

センサーマット導入による生産性の向上

社会福祉法人 菊愛会
地域生活支援事業所 あおぞら

課題

- ・夜間帯、ご利用者がベッドから離床された際、転倒されるといった事故が起きていた。
- ・深夜帯、見廻り時（22時、0時、3時、5時）以外の時間帯のご利用者の状態確認がすぐにできない。
- ・夜間帯のご利用者の様子（呼吸、心拍数、睡眠状態等）の把握が困難。



ロボット
導入

センサーマット

成果

- ①業務上の質の向上
 - ・夜間、見廻り時間以外の時間帯のご利用者の状態をPC画面ですぐに把握することが可能となった。
 - ・ご利用者が離床、覚醒された際は都度ブザー音で把握することが可能となった。
 - ・深夜帯、ご利用者の様子をブザーが教えてくれるといった安心感が生まれ、支援員の心的負担軽減に繋がった。
 - ・ご利用者の今の睡眠状態（深い眠り、浅い眠りの表示で）等の状況をすぐに把握可能となった。
- ②量的な効率化
 - ・センサーマット13台を導入（R5.5）したことにより、1回の夜勤において2～4時間ほどの時間を事務作業やPC作業に集中して取り組むことができるようになった。（生産性向上）



業務効率化のステップ

- ①センサーマットが必要と思われるご利用者を抜粋。
- ②転倒リスクが高い方など起床時にリスクがあるご利用者に特に注意を払うよう職員全体で共有。
- ③センサーマット導入後、PCでの操作、ログインID、パスワード、閲覧方法の職員間での共有。
- ④月1回の会議や職員間で情報共有（コミュニケーション）において、導入後の支援の変化、プラス点、マイナス点の意見交換を行った。

職員の声など

【良かった点】

- ・PCデスクトップの「aams.介護」を開けば、すぐに現在のご利用者の状態を把握可能となった。
- ・ご利用者が離床された際、ブザーが鳴り迅速な支援・見守り対応が可能となった。

【悪かった点】

- ・ご利用者が離床、覚醒された際以外の時でも、ブザーが鳴ることがあった。
- ・ブザーの音で、ご利用者が覚醒されることがあった。
- ・離床された際、ブザーが鳴るのが遅く、対応が遅れてしまい、危うく転倒事故に繋がりそうなきがあった。
- ・センサーマットは不要ではないかとの声が上がった。
- ・ご利用者が、深夜2時頃、覚醒され「離床」の表示になったが、以降朝方までの状態が把握困難であった。

【今後の課題・その他】

- ・職員全員で今後、どのようにセンサーマットを活用していけば業務の効率性が上がるか、また職員の負担軽減、ご利用者の転倒事故等のリスク軽減につながるか話し合いの場を持つ。

